

学習行動調査報告（2025年度）

調査概要

- ・学生の学習に関するレディネスや大学生活への適応を把握する調査。
- ・主に2022-2025年度学習行動調査の比較から、その動向を把握・検討する。
 - ・実施期間：2025年6月30日～8月8日
 - ・調査対象：2025年度学部1～4年生

基礎集計

- ・2025年度の回答者
 - ・有効回答者：969名
 - ・回答率：81.4%（在籍者1191名）
- ・学科×学年別回答者数（2025年度調査）

学科	学年				合計
	1年生	2年生	3年生	4年生	
看護学科	114	86	91	60	351
理学療法学科	105	89	104	104	402
作業療法学科	33	25	44	38	140
臨床工学科	18	26	15	7	66
健康科学科	10	0	0	0	10
合計	280	226	254	209	969

【学部生を対象とした調査結果】

- ・変数ごとの基本統計量（2025年度調査）

変数名	有効N	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
成長的マインドセット	969	3.86	4.00	0.92	0.85	1.00	6.00
自己効力感	969	3.32	3.33	0.91	0.83	1.00	6.00
内発的動機づけ	969	3.68	3.67	0.91	0.83	1.00	6.00
外発的動機づけ	968	4.22	4.33	0.99	0.98	1.00	6.00
メタ認知	940	4.05	4.00	0.74	0.55	1.43	6.00
主体的学習態度	943	4.14	4.00	0.74	0.55	1.00	6.00
エージェンシー	945	3.74	3.67	0.81	0.66	1.00	6.00
適応（友人）	905	4.71	4.67	0.96	0.92	1.00	6.00
適応（授業）	905	4.09	4.00	0.90	0.82	1.00	6.00
適応（大学）	905	3.96	4.00	1.04	1.08	1.00	6.00
適応（教員）	905	4.33	4.33	1.04	1.09	1.00	6.00
全体的に見て学生生活は充実している。	901	4.42	4.00	1.09	1.18	1.00	6.00
もし大学を選びなおせたら、またこの大学にもう一度進学したい。	903	3.82	4.00	1.29	1.67	1.00	6.00
授業外学習時間	930	3.97	3.00	4.35	18.96	0.00	40.00
授業外読書時間	930	0.83	0.00	2.39	5.70	0.00	30.00
アルバイト時間	930	10.97	10.00	8.07	65.09	0.00	70.00

・調査項目と構成概念

調査項目（学習関連）	構成概念
自分の才能は、生まれながらに決まったものではなく、伸ばすことができる。	成長的マインドセット
私の考えでは、才能というものは変えることができるものだと思う。	
学習によって、新しいことがらを学ぶだけでなく、才能も変えていくことができる。	
自分は良い成績をとれる人間だと思う。	自己効力感
授業で示される教材が難しくてもしっかりと理解できると思う。	
授業を通して自分はいまよく学習をすすめられると思う。	
新しいことを学べるように、一段階上へチャレンジさせてくれるような教材を好む。	内発的動機づけ
たとえ難しくても、好奇心をくすぐるような教材を好む。	
良い成績が取れるという保証がなくても、学べることが多い課題を選ぶ。	
現在自分が授業で求めていることはいい成績を取ることだ。	外発的動機づけ
それぞれの科目でいい成績を取ることにもっとも関心がある。	
できるなら他の生徒よりも良い成績を取りたい。	
勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する。	メタ認知
勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる。	
勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる。	
勉強するときは、最初に計画を立ててから始めている。	
勉強するときは、自分で決めた計画にそっておこなう。	
勉強する前に、これから何をどうやって勉強するかを考える。	
勉強する時、過去に上手くいったやり方を試みている。	主体的学習態度
課されたレポートや課題を少しでも良いものに仕上げようと努力する。	
授業には意欲的に取り組む。	
授業はただぼろっと聞いている。（反転）	エージェンシー
学習をするうえでの自分の目標を決めることができている。	
学習したことを次の活動のために振り返っている。	
学習したことを活かして、責任をもって活動したり、何かを決めたり選んだりしている。	

調査項目（適応関連）	構成概念
この大学には、よい友だちがたくさんいると思う。	適応（友人）
この大学の友達と一緒にいると楽しい。	
この大学の友達とは何でも話すことができると思う。	
この大学の授業を受けるのは楽しい。	適応（授業）
この大学の授業ではやる気がわいてくる。	
この大学では一生懸命授業を受けたいと思う。	
この大学の学生であることを誇りに思う。	適応（大学）
この大学の学生であることがうれしい。	
この大学の学生であることを、強く意識している。	
この大学の教員には安心して相談できると思う。	適応（教員）
この大学では教員と気軽に話ができると思う。	
この大学の教員に対して親しみを感じる。	

調査結果の概要

【全体的な2025年度調査の特徴について】

例年に比べ、各項目の得点が高くなっている傾向がみられ、年度間で一部有意差がみられるものもある。一方で、外発的動機づけやアルバイト時間等も増加しており、過度な成績志向の学習や、アルバイト時間と学習時間のバランスに注意を要する。

【特徴的な変化がみられる項目に関して】

・主体的学習態度

主体的学習態度の得点は、2022年度の得点に対し、ここ2年間で有意に低くなっていたが、2025年度は得点上がり、有意差はみられなくなった。

・適応

適応関連の項目は、いずれも4年間で最も高い値を示した。特に、友人、大学、教員への適応の得点は年度間で有意な差がみられる。

・全体的な学生生活の充実感

「全体的に見て学生生活は充実している」の得点は年々増加しており、2025年度は他のどの年度に対しても有意に高い得点となった。また、「もし大学を選びなおせたら、またこの大学にもう一度進学したい」の得点も同様に、2025年度は他のどの年度に対しても有意に高い得点となっている。様々な学生支援や教育改善によりコロナ禍を乗り越え、充実した学生生活をおくれるようになってきていると推察される。

・外発的動機づけ

外発的動機づけは4年間で最も高い値を示し、どの年度に対しても有意に高い得点となっている。一方で、内発的動機づけの得点に有意な差はみられない。学生がより成績を意識するようになってきている傾向がうかがえる。

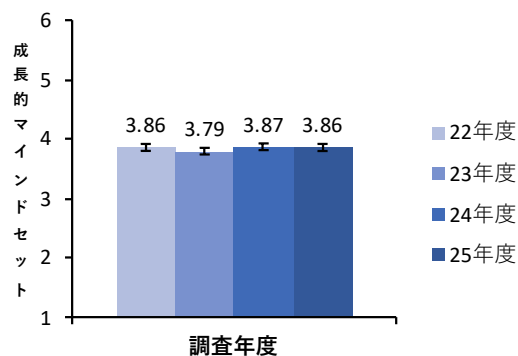
・アルバイト時間

アルバイト時間は年々増加しており、2022年度に対し2025年度は平均で週1時間以上増加している。

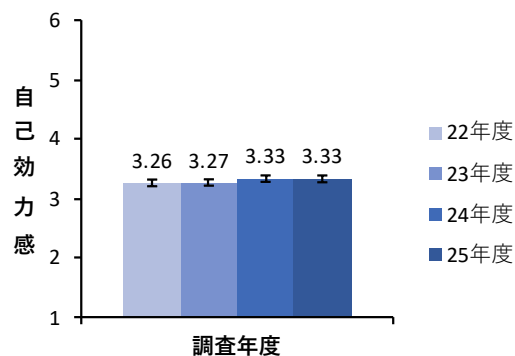
学部生を対象とした項目別の調査結果

※特に記載のない場合は6件法（6が肯定的で1～6点に換算）、エラーバーは95%信頼区間を示す。

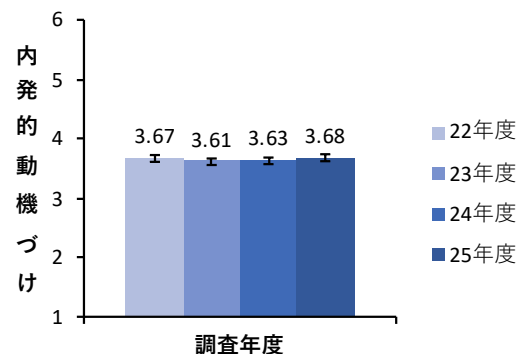
・成長的マインドセット



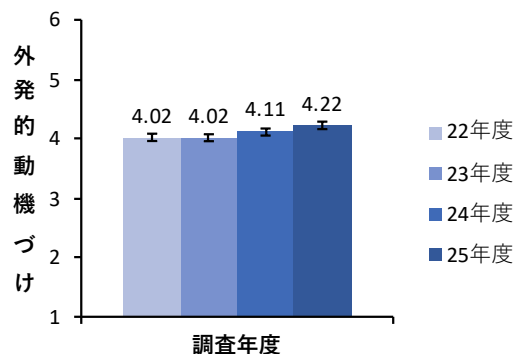
・自己効力感



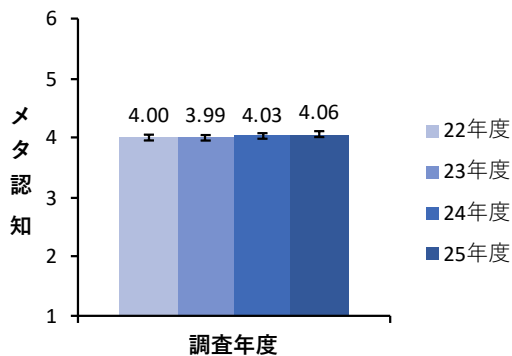
・内発的動機づけ



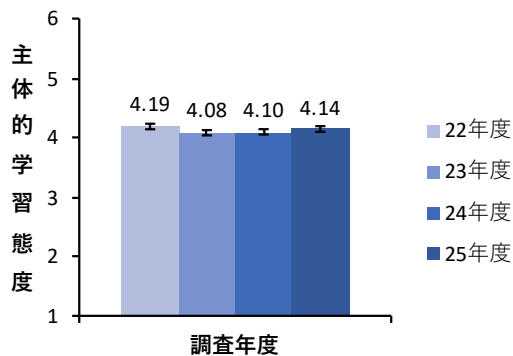
・外発的動機づけ



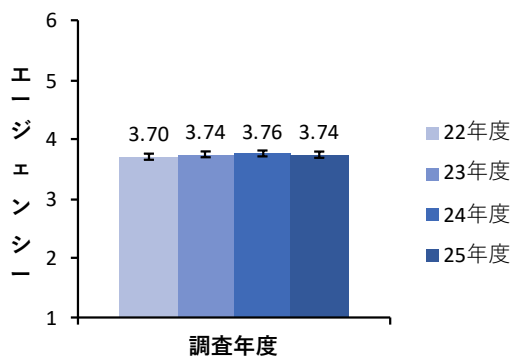
・メタ認知



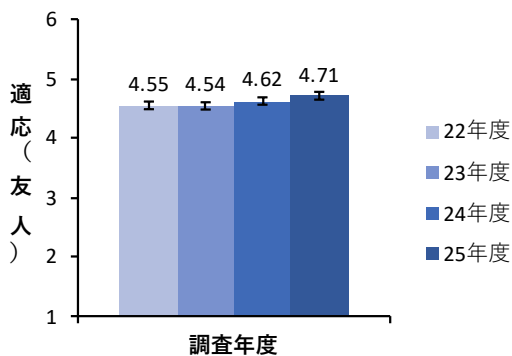
・主体的学習態度



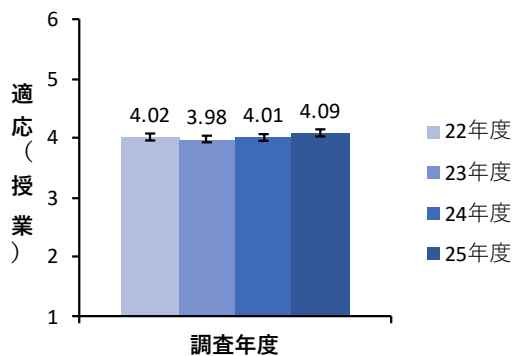
・エージェンシー



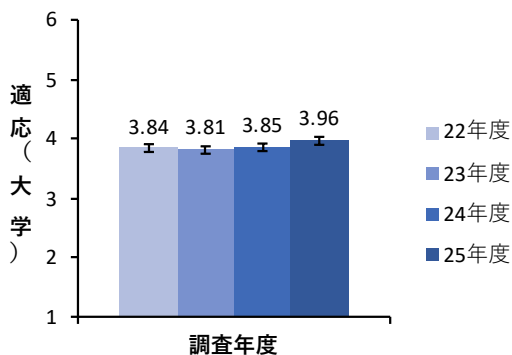
・適応 (友人)



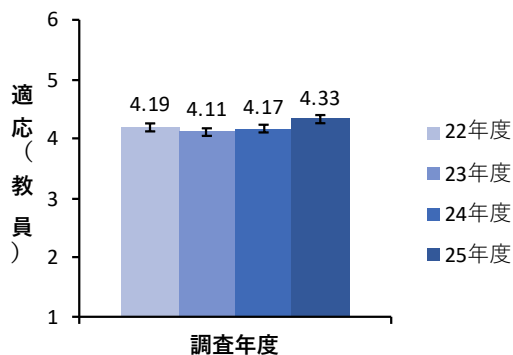
・適応 (授業)



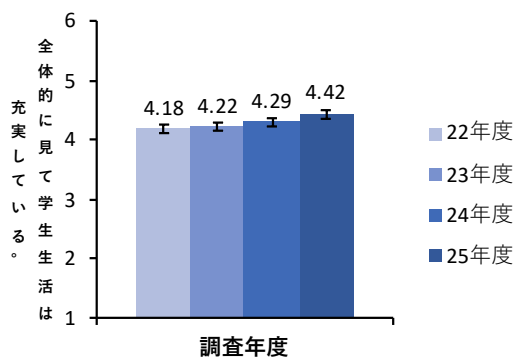
・適応 (大学)



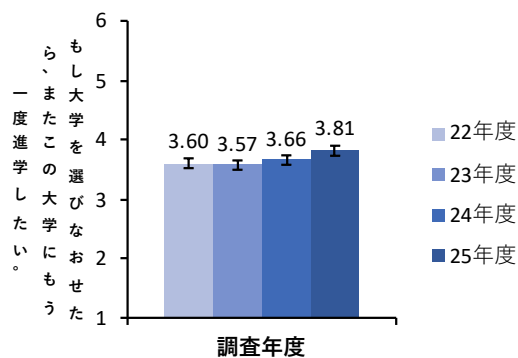
・適応 (教員)



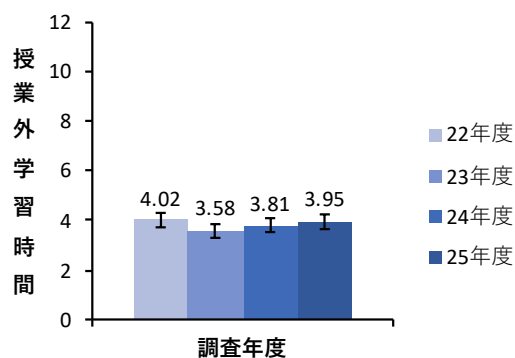
・全体的に見て学生生活は充実している。



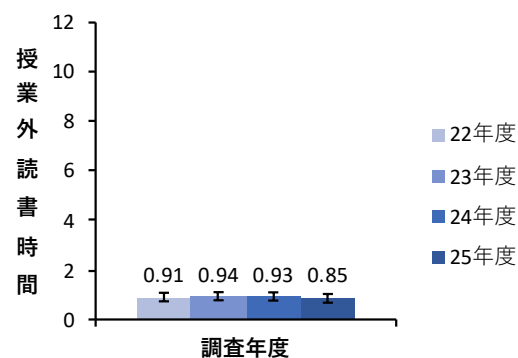
・もし大学を選びなおせたら、またこの大学にもう一度進学したい。



・授業外学習時間 ※週の平均時間を入力



・授業外読書時間 ※週の平均時間を入力



・アルバイト時間 ※週の平均時間を入力

